



お絵描きなどの創作活動で楽しいひとときを過ごす子どもたち

障害をもつ子どもたちの自立と発達を 支援する学童保育 地域療育研究会(山口県宇部市)

している方を見ていてもどこかいい意味での緊張感があつて、とくに女性の方はおしゃべりをしていらつしやる。デイスセンターであるけれどもそこに来る

という感覚だと思つたんですね。初めは嫌がっていた痴呆の人が帰るときには握手をしてくる変わり様を見て、とても感動しました」と熊谷さん。

今後は、障害者ももっと利用しやすくなるように、負担の軽減などを求めて関係機関に働きかけていきたい、という。

たもの。現在、このアート教室のほかに、中高生のために将来の自立を視野に入れたパソコン教室を実施している。さらに、こうしたクラブ活動をもっと地域に広げていくこと、「在宅障害児・者と家族を支援する会」を3月に結成団体も個人も含め、市内のいろいろな障害者をもつ親の会とのネットワークづくりをすすめている。

毎週木曜日の午後、一人、二人と子どもたちがお母さんと一緒にやってきて、元気よく2階の部屋に上がって行く。そこは、山口県宇部市の「地域療育研究会」のメンバーが昨年から行っている障害児学童保育「おひさま放課後クラブ」の教室だ。住宅地にある小児科病院保育所を借りて運営している子どもたちはボランティアのお母さんたちとボール遊びやお絵描きなどをして過ごす。教室の壁のあちこちには落書きなどがあつて、自然で自由で、子どもたちが安心できる空間となつて



代表の村上さん(左)と事務局長の水田さん

「放課後クラブ」事務局長の水田和枝さんは「どうしても家に閉じこもりがちな障害児に、遊びや創作活動を通して楽しい人間関係を体験してもらおうとはじめたのがこのクラブです。実際に子どもたちがど

んなことに興味を持ってやれるか、どうしたら子どもたちが落ち着けるか、集団生活に馴染めるようにするにはどうすればいいかなどを考えながら、障害の状態に応じてやっています」と話す。活動の発端は障害児・者の自立と発達を支援するために4年前に設立された民間の研究・実践活動グループ「放課後クラブ」は、アートセラピストを中心に、地域のボランティア、養護学校の先生方の協力を得ながら小学校に通う障害のある子どもたちを対象にし

結成から運営までを引っ張ってきた水田さんは「障害者をもつお母さんが日常的に困っていることは、子どもが行くところがない、遊び仲間がいらないということがほとんどです。せめて週1回くらいどこか出かけていける場所をつくりましょうとはじめたクラブ活動ですが、親の会と手をつないでもっともっと活動の輪を広げながら、子どもはもちろん、親の生活や悩みなども支えあえるようにしていきたいと考えています」と強調する。

ファイザープログラム

「心とからだのヘルスケアに関する市民活動支援」

2001年度 募集要項

1. 募集期間:2001年7月2日～8月13日
2. 助成金:1件あたり300万円を上限とし、15件程度の助成を予定しています
3. 助成の期間:2002年1月1日～12月31日(1年間)とします
4. 対象となる分野:特に次のようなプロジェクトを重視します。
 - 1)成長過程にある人たちの心身のすこやかな発達を支援する活動
おもに10代が抱える問題を克服し生きる喜びをもつことを助けるもの
 - 2)社会的な受け皿がないために保健・医療を受けられない人たちの心身の保健・医療を支援する活動
外国人、路上生活者、PTSD(心的外傷後ストレス障害)などの人々を対象とするもの
 - 3)障害をもつ人や療養にある人たちの充実した生き方を支援する活動
身体障害、知的障害、精神障害などの人々、難病、長期療養にある人たちの社会生活を豊かにするもの
5. 問い合わせ先:
ファイザー製薬株式会社 企業文化室
03-3344-7524
応募要項はホームページ
<http://www.pfizer.co.jp> からダウンロードできます